

- 01 概要
- 02 展示について
- 03 アーティストについて
- 04 詳細情報

NAYAZ(ナヤズ)は、N&Mが運営する渋谷のクリエイティブスタジオです。私たち自身の制作の場であると同時に、コラボレーションや実験、さまざまな創作活動を探求するための空間でもあります。今年は特に、「食」と「アート」の新しい可能性に焦点を当て、境界を越える試みに取り組んでいます。

最新の活動はInstagram (@studio.nayaz)にて発信中。
ぜひフォローしてください。

01
about

Eunoia(ユーノイア)は、現代アートのプラットフォーム兼コミュニティです。私たちは、アーティスト、キュレーター、そして観客が現代アートを通じて集い、つながることのできる共同の場「Eunoia」を築くことを目指しています。展覧会、アートフェア、出版活動を通じて、新しいアートの声を世界へ発信・共有するグローバルプラットフォームとして活動しています。この10月には、兵庫県神戸市に新たなギャラリースペースがオープンし、拡大を続ける私たちのコミュニティの拠点となります。最新情報は、ぜひウェブサイトのメールリストにご登録ください。

インスタグラムで最新情報をチェックいただけます [@eunoia_artgallery](https://www.instagram.com/eunoia_artgallery)

ウェブサイト: <https://eunoia-gallery.com/>

新設ギャラリー住所 〒657-0033 兵庫県神戸市灘区徳井町5丁目1-1-103

01
about

「Rooms of Our Own」展を、Eunoiaとの共同キュレーションにより開催できることを大変嬉しく思います。

本展は〈住空間〉というレンズを通して、私たちが隠している自分、借りもののアイデンティティ、そして見過ごしてしまうつながりについて来場者に問いかけます。アートと、他者と、そして自分自身と ——別のあり方で向き合うための展覧会です。

*このイベントは会期中入場無料でご覧いただけます。

作家 | 古川 諒子, ミーヨン, 西久松 友花, 張 平成, 佐々木 萌水, 山内 悠

会期 | 2025年 9月8日 - 21日まで

会場 | 渋谷駅より徒歩 10分ほど(住所当詳細は予約の際にお伝えします)

開館時間

12:00 - 19:00

*9月13日のみ17時まで

休館日

9月9日(火), 14日(日)(Sun), 16日(火)

ご来館の際は予約が必要です。下記リンクよりご予約をお願いいたします

<https://forms.gle/jqjPgFke5grTe5YX6>

Upcoming Events

9月8日 月曜日 | 17:00 - 21:00

オープニングレセプション

9月14日 日曜日 | 時間未定

作家と行く TOKYO GENDAI ツアー

アートフェア後のお話会 @ NAYAZ

こちらのイベントには予約が必要になります。お手数ではございますが、ご参加を希望の場合は下記までメールにてお問い合わせください。

studionayaz@gmail.com (担当: Naomi、北西)

1992年、京都府亀岡市に画家の両親のもとに生まれる。山々に囲まれ、寒冷な気候で知られる亀岡は、濃い霧に包まれることが多く、その幻想的な光景は幼少期の彼女を深く魅了した。

主に陶芸を中心に制作し、鮮やかな色彩と緻密で繊細な技法を特徴とする。作品は「心の拠り所」や「祈りの対象」として生み出されており、日本仏教から強い影響を受けている。磁器を媒介に、歴史的遺物や受け継がれた遺品、伝統文化、宗教的象徴を再解釈し、再構築する表現を行っている。

近年のシリーズでは、生と死というテーマの中で「生」に焦点を移し、日常では見過ごされがちな川底に棲む小さな生き物や昆虫をモチーフに、生命の循環と連続性を見つめ直している。

西久松 友花

03
artist



1992年、中国江蘇省無錫市に生まれる。名古屋造形大学美術学部洋画科を卒業後、多摩美術大学大学院油画専攻修了。

無錫は江南様式の水園で知られ、張は太湖のほとりで、水園の瓦屋根や湖を眺めながら育った。彼は日常にあふれる風景や感情の変化を捉えるように絵画を制作し、自然から得た原初的なインスピレーションを抽象的なイメージへと変換している。

伝統的な画材や支持体にとらわれず、自然素材を作品に取り入れ、記憶の断片のようなモチーフをキャンバスに描き出す。

瓦屋根や小舟といったモチーフがたびたび登場し、郷愁を帯びた故郷の情景を想起させる作品を生み出している。



張 平成

03
artist

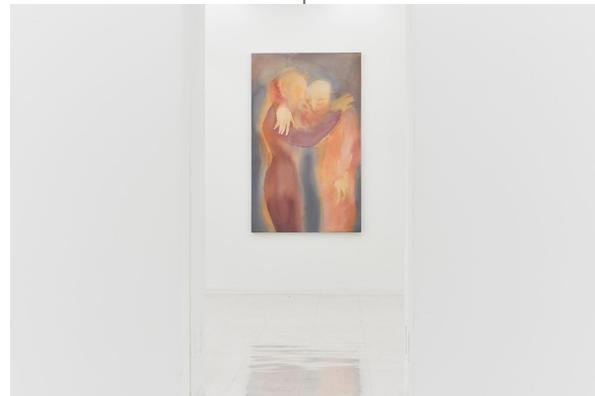
古川 諒子

03
artist

1994年、兵庫県に生まれる。2020年に広島市立大学芸術学部油絵専攻を卒業後、2022年に同大学大学院芸術学研究科を修了。

彼女の制作は、チラシなどの印刷物に書かれた文章を単語ごとに切り取り、それらをランダムに再構成してタイトルを作ることから始まる。こうして生まれた断片的で小さな文章が、絵画の出発点となる。

伝統的な描画方法ではなく、まるで染み込ませるようにキャンバスに色を重ねるその作風は、明確に言語化されたタイトルに詩的な曖昧さをもたらし、言葉とイメージのあいだに微妙な緊張感を生み出している。



パリの写真学校 ICART PHOTO にて写真を学ぶ。1991年より東京を拠点に活動。

2015年から2023年まで、長岡造形大学美術・工芸学科にて非常勤講師を務める。彼女の作品は、哲学・思想・宗教から大きな影響を受けている。

フランスと日本という異なる二つの文化のあいだで暮らしてきた背景や個人的経験は、彼女の芸術活動に大きな影響を与えてきた。

幼少期の記憶をもとに制作されたシリーズ《I and Thou》は、2016年に発表され、フランス・パリおよびアルルで高い評価を得た。写真作品にとどまらず、フォトエッセイや複数の著書を刊行するなど、文筆活動にも積極的に取り組んでいる。

ミーヨン

03
artist



佐々木 萌水

03
artist

1991年、北海道生まれ。現在は京都を拠点に活動。

京都市立芸術大学大学院美術研究科工芸専攻漆工を修了。

過去から未来へと続く人間の営みと時間の連続性に着目し、近年は京都市内を流れる川から採集した陶磁器片を漆で繋ぎ合わせる「金継ぎ」や「呼び継ぎ」の技法を用いた作品を制作している。

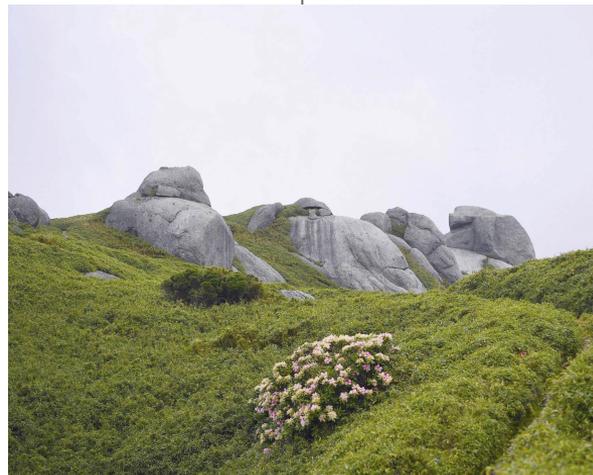
主な個展に《Shells of the City》(ROD GALLERY、東京、2024)、主なグループ展に《Practicing Restoration》(The Terminal KYOTO、京都、2025)がある。



1977年、兵庫県生まれ。自然の中で多くの時間を過ごし、人と自然との関係を通して世界の根源的な姿を探求している。

独学で写真を学び、スタジオアシスタントとして働いた後に写真家としての活動を開始。写真集『Dawn』（赤々舎、2010）では、富士山の山小屋に600日以上滞在し、雲海の上に昇る朝日を撮影した。

現在は長野県を拠点に、世界各地で展覧会を開催しながら、絶対的な宇宙の存在や私たちの世界の現実について問いを投げかけ続けている。



山内 悠

03
artist

情報掲載の際はご一報いただけますと幸いです。
告知素材のダウンロードはこちらからお願いいたします。
リンクは[こちら](#)から。

お問い合わせ先: studionayaz@gmail.com
(担当: 北西、Naomi Hirano Razic)

Eunoia is a contemporary art community platform that features emerging artists. Through contemporary art, we aim to become a whole community called Eunoia that will engage with artists, curators, and audiences. By operating with exhibitions, art fairs, and publishing, we will perform as a world-spreading platform. Our new gallery space is opening in this October. We will operate this space as a base of the community. More information coming soon. Please sign up for email list to be updated from our website.

01
about